

## 地震工学委員会 平成 23 年度第 1 回拡大運営幹事会 議事録

日時：平成 23 年 5 月 30 日（月）15：00～17：00

場所：東京大学生産技術研究所 As 棟 311,312

出席者：

小長井委員長、清野副委員長、当麻前委員長、秋山幹事長、濱野幹事、山本幹事、富田幹事、藤原幹事、清田幹事、高橋幹事、吉見幹事（記録）、竹内顧問、後藤顧問、木全委員、中村委員、丸山委員、尾崎（事務局）

委員長挨拶：小長井委員長より次の挨拶があった。今回は特別な拡大幹事会と認識。東日本大震災を契機に地震工学委員会の活動を見直したい。

### ◎議題と主な議論・決定事項

#### （1）前回議事録（案）の確認

資料【拡幹 H23-01】に沿って秋山幹事長より説明が行われ、内容を確認した。修正意見等があれば幹事に連絡して修正した後、確定議事録をウェブページに掲載する。

#### （2） 審議事項：震災を踏まえての小委員会あるいは活動について

##### ■被害調査の現状について

小長井委員長より資料【拡幹 H23-02】に沿って東日本大震災後の被害調査連絡会について説明があった。日本地震工学会、土木学会、日本建築学会、地盤工学会、日本機械学会、日本地震学会からなる連絡会で、これまで、被害調査に関する連絡、報告会の開催、報告書の編集、国際シンポジウムの開催について話し合われている。

- ・土木学会として報告書の刊行は義務だと考える。
- ・被害調査小委員会との情報交換と意思決定を緊密に連絡を取り合って進めていく必要がある。
- ・清田幹事より資料【拡幹 H23-09】に沿って地震工学委員会関連の調査団派遣状況につき説明があった。宮城県と岩手県がメインであり、関東周辺・や福島県の被害は含まれていない。
- ・小長井委員長より資料【拡幹 H23-06】に沿ってアメリカ土木学会のライフライン地震工学技術審議会からの調査・意見交換につき説明があった。調査団受入れの準備を進めている。

##### ■平成 23 年度 小委員会設置状況

- ・藤原幹事より【拡幹 H23-03】に沿って小委員会設置状況の説明があった。地震工学委員会に設置の小委員会数が減っている。
- ・山本幹事より岡本・國分博士助成金について【拡幹 H23-04】に沿って説明があった。小長井委員長より、この基金につき有効な使用方法を考えていきたいとの考えが示された。

## ■「震災を踏まえての小委員会あるいは活動案提示のお願い」についてのとりまとめ

【**拡幹 H23-05**】に沿って説明があった。

- ・小長井委員長より小池委員の提案につき説明があった。地震被害情報の迅速かつ国際的な発信。英文報告書、国際ワークショップ。スピード重視。
- ・秋山幹事長より清水建設高梨様の提案につき説明があった。東日本大震災に対する課題案の紹介。
- ・丸山委員よりライフライン小委員会からの提案につき説明があった。地震及び津波によるライフライン機能支障の現地ヒアリング調査。
- ・濱野幹事より田中委員（防災企画推進小委員会）の提案につき説明があった。津波に襲われた市民の行動分析。ヒアリング中心（岩手県山田町）。後藤先生より追加説明があった、東日本大震災津波避難合同調査団（今村先生取りまとめ）として活動している。
- ・竹内顧問より【**拡幹 H23-10**】【**拡幹 H23-11**】を参考に水循環ネットワークの地震・津波対策に関する調査研究の説明があった。対象地域は静岡、釧路、高知を考えている。
- ・木全委員より大成建設渡辺委員の提案（地震防災普及小委員会および委員の提案）につき説明があった。
- ・秋山幹事長より岐阜大久世委員の提案につき説明があった。強震継続時間が長い地震動に対する土木構造物の耐震性検討小委員会として活動を予定。

## ■自由討議

- ・小長井委員長より自由討議の前に、学会横断の枠組みが進行中であること、土木学会で特定テーマ委員会が出来上がりつつあることを念頭にして考える必要があること、予算確保は重要であるとの考えが示された。
- ・水循環ネットワークについては、土木学会本体として取り組むのがよいのではとの議論もしている。
- ・津波関係。海岸工学委員会を中心に他学会のグループも合同で津波痕跡調査が行われている。津波避難の実態調査も調整中。特定津波テーマ小委員会は、水関係の委員会がメインで委員構成が行われている。ハード、ソフトの効果、津波高の把握、復興へ向けた取り組みが行われている。
- ・様々な活動が進められることは良いことである。地震工学委員会はバックアップ部隊として位置づけ、報告書取りまとめなど、まとめに動く手もある。
- ・耐震基準小委員会では2001年基準見直しを進めている。地震動と地震随件事象の考え方が整合するように変わってゆけばよいと考える。
- ・各活動は個別の小委員会内で行うにしても、地震工学委員会の中に東日本大震災対応の特別小委員会をつくり、外部から活動が見えるようにするのが良いのではないかと。小委員会活動の中で、特別委員会の特定テーマ委員会としてふさわしいものがあれば、加えていただくのがよい。
- ・小長井委員長より、拡大幹事会を戦略構築のための場にしたいとの考えが表明された。
- ・各提案については活動計画を提出してもらい進めていくことになろう。

- ・小委員会毎に外部予算獲得（国、自治体など）を狙うべきである。
- ・国内向けに11月17-19日の地震工学研究発表会にて各取り組みの速報を発表していただくことは可能か。プログラム編成で考慮することはできる。

これらの議論を経て、以下の方針が確認された

- ・新規小委員会の立ち上げを含み新規活動を実施する  
新規小委員会は以下の2つ
  - 津波避難調査小委員会
  - 水循環ネットワーク災害軽減対策研究小委員会
- ・地震工学委員会内に震災対応のための特別小委員会を設置する
- ・拡大幹事会を東日本大震災対応の場と位置づける。
- ・今後はイベント（シンポジウム等）を睨み、拡大幹事会の頻度を増やす。

#### ■今後の活動方針についての確認

##### (3) その他

- ・小長井委員長より資料【**拡幹 H23-07**】および【**拡幹 H23-08**】の説明があった。
- ・小委員会として外部予算を取るとは可能かとの質問に対し、規程があるかどうかは不明である。獲得実績はある（石積み擁壁）。手続きは学会を通す必要があるはずである。との情報提供および意見があった。

#### 配布資料

【H23-01】平成22年度第1回拡大運営幹事会議事録

【H23-02】東北地方太平洋沖地震被害調査連絡会打合せ要旨

【H23-03】平成23年度 地震工学委員会 小委員会設置状況

【H23-04】地震工学委員会 岡本・國分基金について

【H23-05】震災を踏まえての小委員会あるいは活動案の提案一覧

【H23-06】ASCE・Technical Council on Lifeline Earthquake Engineering からのライフライン調査の動き

【H23-07】東北地方太平洋沖地震被害調査連絡会の委員変更について（川島先生からのメール）

【H23-08】土木史小委員会について（庄司幹事長からのメール）

【H23-09】地震工学委員会関連の調査団派遣状況

【H23-10】静岡市中島浄化センターの東海地震・津波来襲時の被害予測について

【H23-11】東日本大震災における沿岸域浄化センターの被害事例と今後の課題

以上